

「異なるくらし 異なる笑顔 - メキシコの田舎町 - 」

キヤノン・サロン

人間は生きています。どんな地でも、どんな時代でも。苦しい状況、楽な状況、いろいろあります。しかし、不思議とどんな地にも、にっこりと笑っている人はいます。むっとした人もいます。

「幸せは服のよう」だと思ったりします。その時代に合った、その場所に合った、そして何よりもその人に合った幸せというのがあり、それはみんな違うようです。

この子達は本当に良く笑う子供達でした。みんな笑顔の着こなしが上手なんです。メキシコ合衆国はケタラウ州ケタラウ町フリカに住んでいるエスコベド家の子供達、その友達達。

裸足でサッカーをし、地面にノートを広げ勉強をするふりをし、赤ちゃんを抱えて遊び、親たちに甘え、ホースでいたずらをし、怒られ泣き喚き、犬を蹴飛ばして追い掛け回し…

日々生きていくたくましさ、生きるエネルギーにあふれ生きる強さのようなものをしっかり持って温めています。

同じ時代を違ったところ違った習慣の中でくらししている彼等を見ていると、自分は自分で自分の笑顔を探さなくてはという気になりました。自分の服を探さなくてはと…

1999年3月 荻野NAO之